

海外事務所だより

パリ事務所

袴姿のイケメン高校生、 ルイ・パスツール高校で書道の実演 ～ブザンソンの美術館では幻の名画と感動の対面！～

パリ事務所所長補佐 稲塚 広美(群馬県富岡市派遣)

ブザンソン市にあるルイ・パスツール高校 (Lycée Louis Pasteur) と交流を図るために、10月1日(金)～9日(土)の日程で来仏した北海道松前高校の生徒たち。この交流の企画および活動支援に携わったクレア・パリでは、交流のメイン事業が行われた10月6日、7日の行程に同行し交流内容を取材しましたので、その様子をお伝えします。

交流に至る経緯

ブザンソン市は人口約12万人、スイスとの国境まで広がるフランシュ・コンテ地方に属し、パリからTGVで約2時間40分で行くことができ、毎年9月に行われる国際音楽祭の舞台として知られている美しい街です。ルイ14世に仕えた軍事建築家ヴォーバンにより建設された城塞は、ヴォーバンの要塞群 (Fortifications de Vauban) として2008年に世界遺産登録されました。

ルイ・パスツール高校は、ドゥー川にぐるりと囲まれた旧市街にあり、学校の前を流れる美しいドゥー川の流れと活気のある街並みの風景の両方を楽しめる、恵まれた環境に位置しています。

松前町は北海道南西部の渡島半島おしまに位置し、松前藩の政治、経済、文化の中心である城下町として栄えた歴史は古く、松前城、松前漬け、桜



街を囲むように流れるドゥー川

の名所として知られています。

松前高校は、地元の伝統文化・歴史を学ぶ「松前学」、高度な書道教育に力を入れている「書道学」、フランスとの交流を推進する「国際教育」を大きな柱として、特色のある高校づくりを積極的に推進している活気ある高校です。今回、その3つの特色をすべて活かそうとフランスとの交流事業に参加したのは、男子生徒2名(高校2年生と高校3年生)と引率2名(校長先生、英語教諭)の4人です。

遠く離れた海外に位置する2つの高校が今回なぜ交流することになったのでしょうか。

「松前藩家老であった蠣崎波響かきざき はきょうの名画『夷酋列像いしゅう』の原画11枚がブザンソン美術館 (Musée des Beaux-Arts de Besançon) に存在することが26年前にわかったのです。なぜ、どのような経路でフランスに渡ったのか解明されていないのですが、不思議な縁だと思います。このことをきっかけとし、歴史、文化、芸術を大切にする国同士、何か交流はできないのでしょうか」との相談を松前町から受けたクレア・パリでは、ブザンソン市内にある高校の特徴を盛り込んだリストを作成し、その中から交流する条件に合う高校を選んでいただきました。この時、松前高校がルイ・パスツール高校を交流相手校として選んだことが、結果的には今回の交流に功を奏したといえます。

書道学に力を入れている松前高校、芸術クラスも存在するほど芸術教育にも力を入れているルイ・パスツール高校、書道と絵画、芸術の形は違っても相通ずるものがあり、素晴らしい交流となりました。

10月6日(水)

ブザンソン美術館訪問、ペルゴー高校訪問

午前中はブザンソン美術館への訪問です。生徒たちは、アイヌ民族の蜂起「1789年のクナシリ・メナシの戦い」において松前藩側に付いたアイヌの



ブザンソン美術館にて

酋長12人の姿が描かれた『夷酋列像』について、その描かれた背景、歴史等も含め勉強を重ねてきました。そして、資料室で長い間大切に保管さ

れてきた、一般公開されていない貴重な名画との対面は、感動の瞬間でした。学芸員から1枚1枚丁寧に解説していただき、生徒たちは、声を出すことも忘れ、その筆使い、鮮やかな色具合等細かなところまで食い入るように見ていました。

午後は、松前高校の石塚校長先生と共に、ブザンソン市内最大規模のペルゴー高校 (Lycée Pergaud) を訪問し、ドヴォルザーク校長から現在のフランスの教育制度や教育事情についての話をお聞きし、意見交換を行いました。



書道の授業のはずが、いつの間にか…



10月7日(木)

書道パフォーマンス (ルイ・パスツール高校授業、日仏協会)、歓迎会

いよいよルイ・パスツール高校での芸術クラスにおける書道の授業です。松前藩の袴姿で登場した松前高校の両生徒は、着替える前の制服姿の普通の高校生とはまるで別人です。24人の生徒たち(うち22人が女子)が見つめる中、それぞれが好きな言葉「愛」と「夢」、「温故知新」という漢字を見事な筆さばきで数枚書きました。続いてフランス人生徒たちの番です。日本語を学んでいるわけではないので、いきなり「愛」や「夢」の字を書くのは難しすぎるのでは、という心配をよそに、上手な作品を次々と仕上げていきます。そして、さすが芸術クラスの生徒たち、いつのまにか文字ではなく2人をモデルにデッサンを始めてしまいました。

書道のあとは、生徒たちが日本の文化や伝統、松前町や松前高校について、パワーポイントを使ってわかりやすく説明しました。楽しく交流を深めているうちに、3時間の授業があつという間に終了しました。

午後は、同じ会場で一般市民向けに書道のパフォーマンスを行いました。パリ在住日本人学生の琴の演奏も加わり、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

夜はブザンソン市にあるフランシュ・コンテ日仏協会 (Association franco-japonaise de Franche-Comté) 主催に

よる歓迎交流会に招かれ、地元の人たちとの楽しい夕食会になりました。この歓迎会には、在ストラスブール総領事も駆けつけてくださいました。

交流の原点 ～人と人との繋がり～

今回、行程に同行した2日間の報告になりましたが、興味を持っていただけた方は、松前高校の校長先生のブログ「学びの森<http://manabinomo.exblog.jp/>」を訪問してみてください。この交流は地元メディアにも大きく取り上げられています。地域の意気込みが感じられます。その期待に応えるべく、渡仏準備に向けてかなりの学習を重ねたであろう彼らの姿に心を打たれました。



ホストファミリーの皆さんと

フランスとの交流という英語圏ではないからと尻込みする傾向がありますが、生徒たちにとって言葉の壁は何ら問題なく交流を

楽しめたようです。通訳を介さないとならない部分も当然ありますが、それは大人が考えてしまうような壁ではないのです。書道を起爆剤として日本の伝統文化を伝えたことにより、ブザンソン市民の中に親日派が増えたことは間違いないと確信しています。生徒同士、学校間、市民レベルの交流が、今後どのような交流に展開していくのか楽しみです。また、今フランスでは日本の漫画・アニメ、文化、武道等が大人気です。そのようなことも追い風となって、今回の交流が成功したともいえます。漫画・アニメの主人公のような男子高校生が、目の前で武士の袴姿で登場し書道の実演を行ったのですから。

おわりに

今回訪問するにあたり、新年度が始まったばかりで多忙なスケジュールをこなさなければならない中、快く日本からの高校生を受け入れてくださった



ルイ・パスツール高校 芸術クラス (MANAA) の生徒たちと

ルイ・パスツール高校ほかブザンソン市内の学校関係者の皆さまに感謝いたします。また、交流の窓口となっていたいただいた同市の日仏協会の皆さまには、ホストファミリーの募集から始まり、ジャパン・ウィークや歓迎会の企画等お骨折りいただき、大変お世話になりました。

帰国後、石塚校長先生から次のような交流の成果があったと報告がありました。

- ①ルイ・パスツール高校への訪問が継続的にできるようになったこと。
- ②本校への派遣を検討していただけるようになったこと。
- ③ブザンソン市側も、この交流の重要性を認識してくれたこと。
- ④『夷酋烈像』のあり方についての意見交換ができたこと。
- ⑤日本文化の素晴らしさ、松前高校および松前町のことをフランスで伝えられたこと。
- ⑥在校生徒たちの意識が変わったこと。

このように、今後の交流に繋がる下地づくりができたことで、日仏交流の支援というクレア・パリとしての役割も、今回所期の目的を果たせたのではないかと思います。「交流」と一口に言っても、その方法は自治体規模や目的によって千差万別であると思いますが、このような、人と人との繋がりが交流の原点であると考えます。

今後も、クレア・パリでは、日本の自治体とフランスの自治体の交流を支援していきます。



海外生活 だより

パリ事務所

日本犬フランス見聞録

～パリの犬事情～

パリ事務所所長補佐 山口 信義(京都市派遣)

クレアパリへの派遣に伴い、日本で飼っていた柴犬「べんけい」もフランスに来ることになりました。

そこで今回は、パリでの犬の生活ぶりや、日本とフランスの犬事情の相違等をご紹介します。

フランス入国まで

フランスに犬が入国するために必要となる書類(動物検疫所発行の輸出検疫証明書等)はたくさんあるため、入国の約半年前から、かかりつけの獣医さんや動物検疫所と相談しながら手続きを進めました。

日本出国直前には、動物検疫所で輸出検疫証明書を発行してもらい準備は万端…のはずですが、やはり何から何まで初めてのことであり、出発当日はいくばくかの不安を抱えながら空港に向かいました。しかし心配も杞憂に終わり、出国時の手続きはあっけないほど簡単に終わりました。さらに驚いたことに、入国時には検査はおろか、必要書類の確認さえされずに、フリーパスで入国できてしまいました。何か不備があってはいけないので、わざわざ空港内の検疫所に確認に行ったのですが、窓口の担当者にかまわれないから行けと言われました。

空港からパリ市内へはタクシーに乗りました。べんけいは初めての飛行機旅だったこともあり、少し疲れた様子でした。タクシーの運転手は、ケージの中ではかわいそうだからといって、後部座席にべんけいを乗せてくれました。フランスは犬に優しい国だと聞いていましたが、やはりそうだったと実感した、これが最初でした。

パリの犬事情

パリで住居を探す際、不動産屋にペット可の物件を紹介してほしいと依頼したところ、フランスではペ

ットを飼うのは個人の権利なので、基本的にどの物件でもペットを飼ってもかまわな、逆にペット不可の物件を探すほうが難しいと言われ、日仏間のペットの受入環境の違いを実感しました。

パリに来たべんけいは時差ボケで昼夜が逆転していましたが、すぐにそれも治りました。散歩する時も、最

初のうちはフランスの人や犬の臭いがとても気になるようで少し興奮気味でしたが、そのうちパリの犬社会にもすっかり溶け込み、今ではわが家で一番の「パリジャン(パリっ子)」になっています。

べんけいを連れて散歩していると、知らない人からこれは何という犬だとよく話しかけられます。ときには、マンガを通して日本犬のことを知っている若者もいて、これは柴犬かといった質問が飛んでくることもあります。普段は気難しい顔をした近所のおじさんが、べんけいを見たとき、にっこりとほほ笑んでくれることもあります。地元での交流が進み、べんけいも日仏の文化交流に一役買ってくれているようです。

パリに来て以来、日仏の文化的な相違から、さまざまなカルチャーショックを受けてきましたが、犬関係では、①パリの犬の多くは散歩時にリード(綱)をつけない、②散歩時の糞を拾う飼い主は皆無、の2点は大きな衝撃でした。

リード

パリでは多くの犬がリードなしで散歩しています。



べんけい(2歳オス)。
後ろに見えるのはエッフェル塔

リードをしていない犬は、基本的にきちんとしつけを受けており、飼い主の言うことをよく聞くのですが、それでも小さな子どもが犬に噛まれて大けがをするといった事件が毎年のようにフランス国内で発生しているそうです。べんけいも散歩中によくリードをつけていない犬に近寄られます。近寄ってくる犬はた

いていおとなしいのですが、なかには攻撃的で吠えかかってくる犬もあり、ふだんはおとなしいべんけいも興奮して吠え返すこともあります。



リードをつけずに散歩する犬たち

犬の糞

パリの街並みは確かに世界に誇りうる美しさを持っていますが、視線を道路面に向けると、げんなりすることがあります。犬の糞が散乱しているのです。街を歩く際も、足元に気をつけていないと大変なことになります。パリ市内では、2002年に市が制定した条例により、飼い主には犬の糞を拾う義務があり、違反者には35ユーロ（約4千円）の罰金が科せられます。2008年には1,858人の飼い主が現行犯逮捕？されているのですが、道端の犬の糞はなかなか減らず、条例も抑止力とはなっていないようです（ちなみに、介助犬の場合は、飼い主に糞を拾う義務はありません）。べんけいも路上に落ちている他の犬の糞は嫌なようで、散歩の際は必ずよけて通ります。

パリ市の広報パンフレットによると、パリ市内では毎日14万7千頭の犬が路上で総量12トンの糞をしており、その清掃のために年間1,100万ユーロ（およそ13億円）の経費がかかり、また犬の糞が原因の事故が年間650件起こっているとのこと。

公共の場での犬の受入れ

フランスが犬に優しい国だと特に実感するのは、公共の場においてです。パリの地下鉄や市バス、トラムでは、犬を連れて乗車している人がよくいますし、カフェのテラスでも犬連れの人をよく見かけます。お店も、食料品店とマルシェ以外は、たいてい

犬と一緒に入れます。地下鉄、市バス、トラムには、6kg以内の小型犬しか乗れないことになっていますが、規則の運用は緩やかなようで、ハスキー犬のような大型犬が地下鉄に乗っているのを見たこともあります。RER（高速郊外鉄道）の場合は、大型犬の乗車も規則上OKのようです。一度べんけいを市バスに乗せてみましたが、運転手からは特になにも言われませんでした。また、先日TGVに乗った時には、通路向こうの席の下にゴールデン・レトリバーが寝そべていました。バカンスで南仏に向かう途中のようでした。べんけいもいつかTGVに乗れる日がくるかもしれません。

このように公共の場では広く犬が受け入れられていますが、意外なことに公園は、犬が入れないところが多くなっています。これは前述した糞事情によるのでしょうか。

また、日本では数多くあるペットホテルがパリにはほとんどありません。バカンス中は、個人的な知り合いに犬を預けることが多いようです。わが家も近所のペットショップの店員さ



公園入り口の表示（4つのイラストのうち左端が犬進入禁止のマーク）

んと仲良くなれたので、旅行の際にはべんけいを預かってもらっています。ペットショップと違って檻に入れられることもありませんし、ペットショップに勤めるだけあって犬が大好きな人ですので、べんけいも預かってもらっているときは、言葉の壁を乗り越えて？甘えきっているようです。

おわりに

フランスでは、1999年から法律で犬のタトゥー（刺青）またはマイクロチップによる固体登録が義務付けられました。また、攻撃性が高いと指定された品種の犬を飼う場合には、法律により保険への加入が義務付けられています。糞のポイ捨て禁止も含めて、法制度的には犬の管理は強化されているようですが、フランス人の犬好きは相変わらずのようです。

べんけいにもそのうちパリジェンヌの恋人ができる日が来るかもしれませんね。